

犯罪

情報化社会と格差社会がもたらした犯罪

まさに、今後の情報化社会と格差社会の問題を予見する犯罪が起きた。テレビでよく登場するセレブといわれる層をターゲットとした犯罪である。

最近、テレビ番組では富裕層の生活スタイルに視点をあてた娯楽番組が多い。ここで登場する資産家は自分の行動範囲から家の中まで惜しげもなく公開する。いくらハード面のセキュリティーを強化しようが、この時点でソフト面のセキュリティーが無防備な状態になっていることに気がつかなくてはならない。これはセットになって、始めて正常に機能するものである。しかも、箱物以外ではソフト面のセキュリティーのほうが重要といえる。そこを踏まえて考えなければならない。テレビは良くも悪くもオープンになる。タレントが本名を使わないのも、そのためだ。プライバシーリスクからプロテクトするためである。テレビなどの媒体は広告効果も計り知れないが、リスクも伴うことを予め認識する必要がある。また、番組制作サイドからの要望もあり、答えざる得ない状況もあるだろうが、その辺はリスクと照らし合わせ、冷静に判断することが必要である。要はテレビという媒体を通じ、あらゆる人に自身の情報を無防備に与えていることに他ならない。そして、その視聴者は千差万別であり、その感情や思考までは視聴率調査でも掴み取れない。出演する資産家は社会の実情を考慮する必要がある。また、視聴者感情にも、配慮するくらいの心遣いあるとなおさら良い。テレビなどの媒体を利用する時こそ、資産家はリスク管理のプロに相談すべきだろう。また、媒体側もプライバシーリスクを説明し、出演者に十分な配慮をすべきである。たとえ本人からの許可を得たとしても、自宅の周りにはぼかしを入れるなど、その配慮技術手法は豊富であり、自己規制により処理できる。その公共性を忘れてはならない。

今回起きた誘拐事件が早期解決に至ったのは、不幸中の幸いである。知っておかなければならないことは、本来、能動側、いわゆる加害者には必ず思考的計画性があり、時間的・空間的・精神的優位にあるといえる。受動側、いわゆる被害者は最初からハンデを背負い、かなりの状況的劣位にあるのだ。今回は能動側が緻密さに欠けたことが幸いした。まず、目撃者が車のナンバーを正確に記録した。これは比較的防犯意識の高い地域と個々に意識の高さが窺える。ここを犯行場所に選んだことが能動側の失敗であり、空間的優位が受動側には存在した。しかも、情報戦で前進している。さらに、警察にいち早く通報したことも大きい。ここでも受動側が量的優位に立った。しかも、今回は警察の慎重な行動と大胆な決断が指揮する者と現場チームに一体感があつた。そして、能動側の知識の低さである。携帯電話は人口密度が過密になればそれだけアンテナ数も増えるわけで、都市ではそれだけ位置を特定されやすいということになる。さらに、その電話で何度も交渉を持っている。この時点で時間的・精神的優位が逆転した。報道によると、レンタカーを借りるにしろ実名で借りている。盗難車を使用していないことや、偽造パスを持っていないことなどから、黒幕の存在はないだろう。もしかすると、警察が早期逮捕をしていなければ、早い段階で何らかの処置を考えていたのかもしれない。これらを報道では杜撰な犯行と知っているが、言い換えれば凶悪ということに他ならない。杜撰なほど、荒っぽくなり、更にはやけっぱちなのである。何をするか分かったものではない。実際、警官に向かって発砲しようとしている。そして、犯罪の世界ではどんどんグローバル化が加速している。しかも、低年齢化もしている。すべての外国人が悪いわけではないが、食い詰め、不法に滞在する外国人が犯罪に走る。しかも、犯罪手法を持ち込む者までいる。これからは若い世代でニートやフリーターが多い日本人の中にも、自暴自棄になる者が更に増えるだろう。そのとき、犯意が身内に向かうか、社会に向かうかという差でしかない。

今回は比較的知識が乏しく、技術力のない粗暴な組織だったが、これがそうでなければ、こうは簡単には解決しなかつただろう。また、誘拐のプロでなかつたことが、幸いした。もし、プロであれば交渉はない。2、3回目の交渉で殺害されていた可能性が高い。計画性は窺えるが、場当たりのな半プロの犯行である。これからは間違いなくこのような凶悪犯罪が増える。

過去の例からも、社会が成熟すると、富が集中しやすくなる。その際に誰であろうと、成功者を懲らしめると持て囃されたりもした。そうならない為にも、本来、本物の資産家は富をひけらかさないものだ。逆に質素儉約を重んじ、お金を持っている素振りさえ見せないものである。危険が多い時代では当然の所作であり、危機管理だった。資産家こそ、生活や言論を慎み、社会に感謝しつつ、富を分配する精神が必要である。それが出来なければ、一般的な暮らしぶりを心がけ、お金はないといっていることに越したことはない。そうでなければ、資産も家族も大切なものが、いずれ崩壊することになる。

今回、危機管理の観点に絞り述べたが、無事でなによりである。今後、ご家族間では心のケアなどご苦労も多いと思うが、家族の愛で乗り切ってほしい。